

地図から地域を読む

作成者：山岸 智弘、小田 孝子

* 本教材案に出している資料は公開許諾は行橋市から受けている。

ここはどこだろうか？



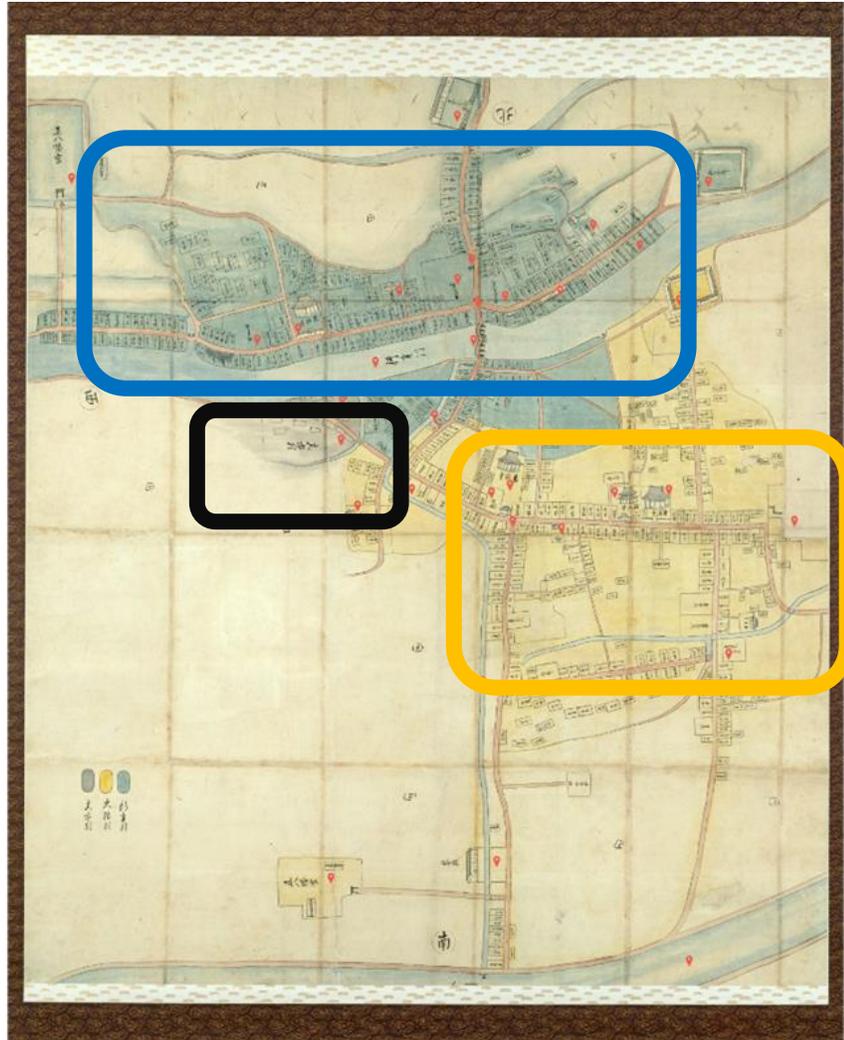
https://adeac.jp/yukuhashi-city/viewer/mp200010-200010/ezu_genpon/

「大橋村 行事村 宮市村見取図」 (1868年)



＝大橋・行事の中心部
を描いた見取図。

何故、この3つの地区を混ぜてあるのか？



1889年：大橋村、行事村、宮市村の合併。行橋町に。

1954年：行橋町と延永村、樺市村、稗田村、今川村、泉村、仲津村、今元村、蓑島村が合併。行橋市に。

この資料についての素朴な疑問を挙げてみよう

ルール

- できるだけ 「なぜ」 を使おう。
- もちろん、「何」「いつ」などを使っても良い。



できたらメモをして共有。

この資料についての素朴な疑問を挙げてみよう

ルール

- 地図のなかの赤のチェックポイントにカーソルを合わせて、解説を読んで、疑問を挙げよう。
- 社会科系の教科書（地理・歴史）などの記述を参考にすると良い。副読本（郷土学習）の記述を使っても良い。

https://adeac.jp/yukuhashi-city/viewer/mp200010-200010/ezu_kaisetsu/

この資料についての素朴な疑問を挙げてみよう

ヒント

- 分からない単語はJapan Knowledgeや辞書を使って引いてみよう。
- くずし字（地図のなかにあるぐにゃぐにゃした文字）がわからない場合、教員や司書さんに聞いたり、miwoを使って調べてみよう。

ダメな問いの例

- この文字は何と書いてあるのか？
- なぜ、この地図には色が使われているか。
- すぐ想定できる問い。
- この地図資料からかけ離れた内容の問い。

素朴な疑問を調べるには...

• 例えば...

- (1) 何故、こんな地図が作られたのか？
- (2) 何故、こんなに寺や神社があるの？
- (3) 何故、こんな地域がこんなに色々あって栄えているの？
- (4) 何故、どのように色分けされている？

これらに答えるために

- 受業で習った内容に接続する。

例：1868年に作られている。

= 明治維新の頃

それ以前 = 江戸時代に作成開始のはず。

👉 江戸時代に何があったか？

どうということと関係しそうか？

これらに答えるために

- 受業で習った内容に接続する。

👉 江戸時代に何があったか？
どうということと関係しそうか？

👉 仮説：五街道・参勤交代などに関連？
江戸後期の動乱との関連？

これが本当に繋がるか証拠を見つける。

描かれた物のミクロな部分に注目するには...

👉 次に、教科書などで出てきたキーワードや関連事項について基礎的な内容を抑える。資料集や辞典を使う。

👉 この地方のことも同時に見る。

教科書から...

- 歴史（日本史）の教科書の記述を確認しよう！

描かれた物のミクロな部分に注目するには...

👉 【続】 行橋市の年表 を見てみる。

<https://adeac.jp/yukuhashi-city/timeline/tm000010>

ざっくりとした情報を得る。

それを手掛かりにリンクをたどり、『市史』を見てみる。

今回の資料からヒントとなる情報は...



キーワード
ゲット!

- 公的施設
- 大橋御茶屋
- 御蔵所(京都郡)
- 御蔵所(中津郡)
- 正八幡神社
- 正八幡宮
- 貴船神社
- 稲荷社
- 恵美須神社
- 西福寺
- 田福寺
- 神岡寺
- 浄蓮寺
- 安楽寺
- [閉じる]
- 船屋
- 船屋の酒屋店舗
- 柏屋
- 柏木豊八郎邸跡
- 新屋
- 油屋
- 旧百三十銀行橋支店
- 道・橋・川
- 長崎川
- 万年橋
- 中津往来
- 中津往来 横町口
- 舟路川
- 寺川

キーワードを使うと...

- 中津街道が細川氏・小笠原氏によってつくられていることが分かる。
- 目的も大体わかる？
- 街道沿いの他の地域からの情報も得られるかも？

これらを駆使すると... (例)

細川時代の大橋御茶屋

◀ ◀ 703 / 1235ページ ▶ ▶

[目次 / 第四編 近世 / 第四章 藩政時代の産業・経済・交通 / 第三節 在郷町・大橋 / 三 大橋御茶屋](#)

細川時代の大橋御茶屋

449 ~ 449 / 898ページ

これから以後は、大橋村の中に在郷町が形成され、行事村とともに領内屈指の経済圏をなした江戸時代後半のことを中心に、主として、大橋村が有していた、一村落としては完結しない公的な側面・役割について触れてみたい。具体的には仲津郡の中心地として、郡行政の諸施設が所在する、行政都市としての側面についてである。

大橋村の行政機能を考える時、避けて通ることができないのが、前項でも触れた「御茶屋」の存在である。前述のように、大橋御茶屋は寛永七年(一六三〇)六月の史料に存在が確認でき、既に細川時代に設置されていたことが分かるが、それ以上のことは未詳である。近世の交通路は御用通行が優先して整備・運営されるが、その一つとして、休泊施設としての御殿・御茶屋が公設される。時を経て、そういった公設の休泊施設は民間の「本陣」に移行していくが、地方の脇街道では民間に機能移行しないまま江戸後期に至る、とされる。ただ、細川藩領を事例とした研究では、御茶屋の設置が必ずしも交通路整備と関連していないことと、細川忠興が仲津郡・京都郡を鷹場としており、同郡内の御茶屋設置は、彼の鷹狩と深い関係にあったことが指摘されている(井出隆正「近世豊前国小倉藩における『御茶屋』について」)。

⇒「[大橋村 行事村 宮市村見取図](#)」を見る...大橋御茶屋

これらを駆使すると... (例)

目次 / 第四編 近世 / 第四章 藩政時代の産業・経済・交通 / 第一節 街道と宿駅

二 小倉城下町と五つの主要道

414 ~ 417 / 898ページ

慶長五年(一六〇〇)関ヶ原の役の功勞により、丹後国宮津で一万石を領していた細川忠興(ただおき)は、豊前一国と豊後二郡で三〇万石を領し、同年一二月中津城に入った。隣国の毛利氏や黒田氏への防備や貿易を考慮して、忠興は居城を小倉に移すことにした。慶長七年(一六〇二)正月歛入(くわい)れ、同年一月小倉城の普請(ふしん)が成就し、小倉城に入城となった。城の全容が整ったのは五年後のことだった。さらに城下町の建設は、細川氏小倉在城三〇年の間にも完成しなかった。

寛永九年(一六三二)、三代將軍家光は豊臣系大名の力を弱め、幕府の安泰の体制づくりのため、信任する小笠原忠真(ただざね)を小倉城に移封(いほう)し、企救(きく)・田川・京都・仲津・築城の五郡と上毛郡(こうげぐん)の一部合わせて一五万石の領地を与えた。小笠原氏は家臣に知行地を与えず、知行高に応じて蔵米(くらまい)支給を実施したため、家中の者が城下町に居住することになり、商業が繁栄した。城下町の骨格は細川時代に建設されたものを小笠原氏が継承して完成した。新規の事業は四つの新地開発を行ったにとどまる。

この小倉城下町は、西曲輪(くるわ)・東曲輪・帯曲輪の三つの曲輪による「総構(そうがま)え」の構成、本丸の大手門から逆時計回りの渦巻き状に家格が下がるという渦郭式の構成、高台の上級武士、新開地の下級武士、谷間・低湿地の町人という構成原理に従う特徴を有していた。

当時の主要な交通は水運であった。忠興は、紫川の河口を利用し、さらに百間にも及ぶ波止(はと)を設けて港を築いた。常盤(ときわ)橋を中心とする河口一帯は港の機能が充実していった。紫川の左岸に張り出した御蔵や代米御蔵、右岸には商家の蔵屋敷が立ち並んだ。忠興がこのように港の整備に情熱を注ぎ続けたのは、関門海峡に面した要衝(ようしょう)の地であったのみでなく、南蛮貿易や大陸との貿易に着眼してのことであった。

一方、紫川河口の港一帯は、九州の陸路の起点として宿駅の機能をも併せ持っていた。五つの主要道、つまり中国路(門司往還(もじおうかん))、中津道(豊後道)、香春(かむら)道(秋月道)、福岡道(唐津道)、長崎道の起点として、常盤橋周辺は人と物が集散して商業が振興した。

常盤橋を起点に、その五つの主要道に沿って商家が立ち並び町人町が形成された。常盤橋から中津道の出口であった中津口と香春道の出口の香春口を結ぶ魚町は本城下町最大の繁華街であった。また、長崎道の出口の到津口に至る室町や立町(たてまち)、門司往還の大里への出口の門司口に至る京町、福岡道に結ぶ室町、大門、溜池口から帯曲輪(おびくるわ)などに至る街路に沿って、商家が立ち並び賑った様子が図に見て取れる(図1)。

これらを駆使すると... (例)

- 地図が作られた理由は？
- 栄えた理由は？

より細部を理解するために...

- 概説書、専門書

- ☞ 探し方は？ 図書館のシステムで検索。
- ☞ より具体的で意味が繋がられたかたちで説明される。

例：『道路の日本史』（中公新書）
『日本の歴史』など。

例えば...

- 中津街道についてであれば...

中津街道・小倉往来に関するキーワード

 きっと図書館の「郷土資料」分類

- 時代についてであれば...

江戸時代なので...恐らく「210」番台？

より細部を理解するために...

- 報告書

 今回でいうと、『歴史の道調査報告書』など。

 概説書と繋げて考えてみる。

調べるのにつまったら...

- 図書館へ

パスファインダー

レファレンスカウンターで質問

得た情報から問いを整理・立て直ししてみよう

- 単純に「何故〇〇があるのか？」を膨らませよう。
- 整理する際に、これまで得た情報で、もう少し「かっこいい」問いにしてみよう。
 - ＝具体的なものを通じて、すこし大きなことを考える。

練習問題

- なぜこんなにこの地域が江戸時代・明治初期に栄えているのか？を探すためにはどうすればいい？